



有限会社酒田医療看護動物病院

平成28年度採択

【対象類型】 革新的サービス

【事業類型】 一般型

事業計画名

最新型動物用MRI導入によるCTと連携した県内初の高精度検査サービスの実施



動物用MRIシステムを導入

事業の背景・目的

近年のペットブームや少子高齢化の影響もあり、ペットは家族の一員という認識が強まっており、動物病院に対して検査・診療技術の要求も高いものになっている。当院では顧客ニーズに応えるために地域に先駆けて10年前にCT検査機を導入した。しかし、動物の長寿命化に伴い、脳脊髄の疾患など、CT検査だけでは判断が難しくなっている。脳脊髄を検査できるMRI検査機は県内施設になく、MRI検査を要する場合、岩手、宮城、新潟の県外に紹介するしかない。当院の売上につながらないだけでなく、飼主にとっても高額検査費に加え、移動に伴う精神的、時間的負担があり、受診を躊躇することが多い。MRI検査機の導入により、最善の治療と飼主の負担減、当院の顧客獲得を目指す。

事業内容

当院のCT室隣接の部屋に、地盤や建物床の大きな改良の必要がなく設置可能な軽量最新型動物用MRI検査機を導入、設置した。

脳脊髄疾患の症状を呈し、当院および連携病院に来院した犬、猫などの小動物に対し、飼主の了解のもと、動物に麻酔下で先にCT検査を実施し、脳脊髄の異常部位を発見する。その後麻酔下の動物を隣接するMRI室に移動し、CT検査異常部位に引き続き連続で本事業で導入したMRI装置で検査を実施、疾病が何かを精査する。

当院はCT検査機を導入して10年の実績があり、安全度の高い麻酔技術で麻酔下での連続した、CT・MRI連携検査実地が可能である。

業務内容

小動物(イヌ、ネコ、ウサギ、小鳥、ハムスター)の診療。周辺の他動物病院からのCT、MRI検査を含めた難病動物の診療依頼も多く、随時受け入れる。当院で診断がつき対処できる場合は外来または入院治療や手術を実施し、内容的に当院での対処や手術が困難な場合は、当院の各種検査情報を添付して大学病院等の高度獣医療機関への依頼や紹介もする。



代表取締役・院長 鹿野 雅紀

代表者: 鹿野 雅紀
設立年: 平成14年6月
資本金: 300万円
従業員: 11名

住所: 山形県酒田市東泉町6-1-12
電話: 0234-22-2233 FAX: 0234-22-2024
URL: <http://business4.plala.or.jp/sakadou/>
e-mail: sakadou@palette.plala.or.jp

ペットは家族。県内初の最新MRI検査機導入で動物と飼主の負担軽減 CT検査機とMRI検査機の連動で脳脊髄疾患の診断が大きく前進



CT検査後隣接するMRI検査に麻酔したまま移動可能に



MRI検査中

事業の成果

導入した最新型動物用MRI機での画像は、人用大型MRI機種に比べても遜色のない内容であった。MRI室がCT室に隣接する位置に設置したため、麻酔下の動物をスムーズに移動し、CT検査後連続でのMRI検査が可能になり、麻酔や移動による動物の体への負担が軽減された。同時に、飼主が県外に出向いてのMRI検査費、時間的、精神的負担の軽減にもつながった。

県内の平均動物病院診療報酬が東京平均報酬の約60%と低い状況である中、導入前の県外でのMRI検査費は約15万円であった。それを踏まえて当初はMRI検査費を10万円と設定していたが、現状では8万円の費用に変更し、飼主と連携病院からの依頼は増加している。

今後の展望

県内の連携動物病院、動物医療保険会社や庄内地区のペット販売事業所にCT・MRI検査が可能なることを告知。庄内地区・全県で小動物脳脊髄疾患における診断、最善の治療ができるようになり、当院のみならず連携病院においても治療内容の向上が見込め、当院の脳脊髄疾患手術数も現在の2倍以上に増加すると予想している。

検査費については当面あげていくことは難しいと思われるが、飼主にとってペットは家族であるという認識はますます浸透していき、価格以上の付加価値のある「命を救う仕事」になると思われる。また、予定より早く獣医師の増員が見込めるため、今後は県内、近隣の県外からの需要を取込み、多くの命を救い、売上増を図っていく。